

(様式第 11 号) (第 14 条関係)

令和 6 年度 「みんなの力でつくるまち」活動支援事業評価報告書

事業名	こどものまち軽井沢プロジェクト
団体名 (連絡先)	こどもまちづくり部 (代表：松浦麻衣子)
総事業費	623,474 円 (うち補助金：250,000 円)

事業内容

8月お盆ウィークの5日間、軽井沢中部小学校にて、町内の小・中学生を集めて「こどものまち軽井沢」を実施しました。独自通貨「かーる」を使い、仕事をしてお給料をもらい税金を払ったら、残ったお金で遊んだり、買い物をしたり、起業したり、社会のしくみを体験しながら、たっぷり遊びます。見守りの大人スタッフは口出し手出し厳禁。子どもたちの自主性に任せた子どもだけのまち。最終日には子どもたちに加え、保護者や地域の方も交えたお祭りも昨年に引き続きコモングラウンズで開催しました。



事業効果

3年目となった今回は、参加者は昨年の倍の260名、5日間の延べ参加人数も倍の857名、協賛企業も10社(+3)、協力企業も28社(+8)と増え、認知度の広がりを実感しました。新たに軽井沢こども未来基金の協力で町内3か所からの朝のバス送迎が実現。また、当イベントのモデルであるドイツ・ミュンヘンの「ミニ・ミュンヘン」と同時期開催であったことから、連絡を取り子ども同士のZoomでの交流が実現。40年以上続くミュンヘンの先進的な取り組みに、子どもたちは刺激を受けました。最終日にはリーダー会議主催の鬼ごっこも開催。今年もまた違った展開が見られました。11月には子どもたちの作品を「かるいざわ ざわざわ」に展示しました。

【目標・ねらい】

- 子どもの自主性に任せる
- 学校・学年を超えて混ざる
- 興味や得意を生かす
- 生み出す喜び、変えられる実感が得られる場
- 子どもを地域で育む
- 子供を中心に保護者や地域の方が繋がっていく
- 地域の子どもたちの育ちを見守る協力の輪が広がる

今後の取り組み

こどものまちは、大人は口出し手出ししない場。子どもの主体性にすべてを任せ、子どもたちが自分の興味やちょっとした勇気と向き合い、失敗したり試行錯誤したりしながら、時にはぶつかり、話し合っ、乗り越えて、自分の手で何かを生み出すこの機会は、子どもたちの生き生きとした表情からその手ごたえを少しずつ得ています。「軽井沢の夏休みといえばこどものまち」というような夏休みを象徴する活動にすべく、引き続き活動を継続していきたいと思っています。今年度で補助金が終了となるため、公益性を担保しながらの運営資金と人員の確保が今後の課題となります。ひきつづき地域の方々、多くの企業のお力を賜りながら活動継続を模索していきたいと思っています。3年にわたり当イベントを応援していただきありがとうございました。

自己評価（目標達成率）【 A 】

※自己評価欄は「A」90%以上「B」70～89%「C」50～69%「D」49%以下で示すこと。